

< 資料 >

行政担当者のための ねずみについてよくある質問&回答集

この資料は、ねずみに関する相談窓口業務の参考のため、一般住民から寄せられるよくある質問と回答例を集めたものです。

1 ねずみの生態に関する質問

Q1 近年、ねずみが増えている理由には、どのようなものが考えられるか？

A：東京都ねずみ防除指針 第一部「大都市とねずみ」を参照。

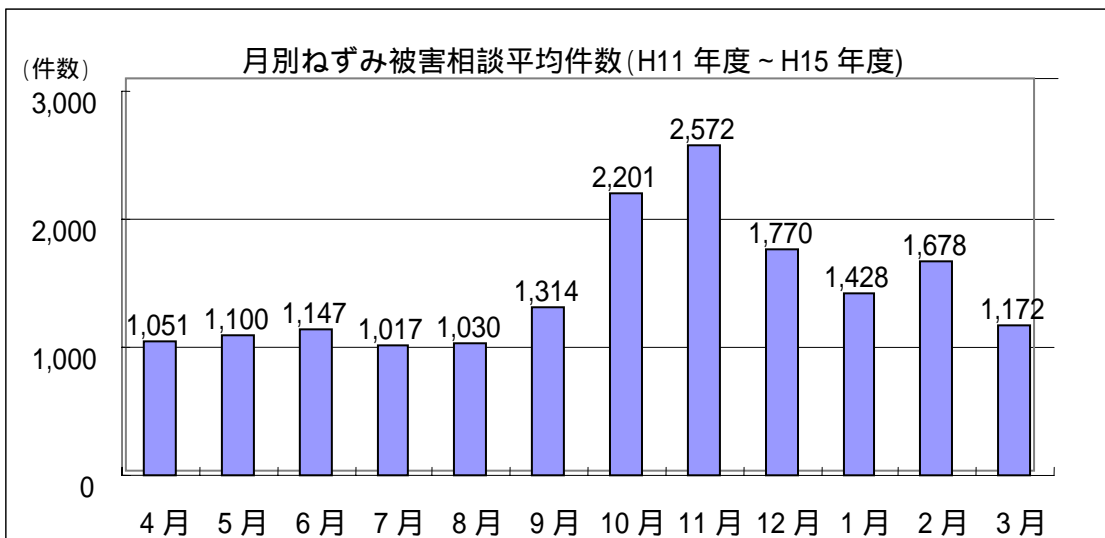
Q2 ねずみの一日の行動パターンは、どのようなものか。

A：ねずみは一般的に夜行性であるが、夜間を通して活動しているわけではない。屋内に生息するねずみは、人に依存して生活しているため、人の生活パターンに左右され、人が寝静まった夜間や留守で人が不在の時間帯等に活動することが多い。

Q3 ねずみは寒くなると屋内に侵入すると聞いたが、本当か。

A：一般的には、寒くなる10～11月ごろに、暖かい民家に侵入するため苦情相談件数が増え、外が暖くなる3月ごろから少なくなると言われている。

下のグラフは、平成11年度から15年度までの、東京都における月別のねずみ被害相談件数の平均を示したものである。これを見ると、10月、11月をピークに、冬場の相談件数が夏場に比較して1.5～2倍程度多くなっており、若干の季節変動が認められるが、年間を通じて相談件数は多い状況で推移している。



Q4 近所で大規模な工事が始まってからねずみが出るようになったが、なぜか。

A：ねずみは新しいものや状況に対して特に警戒心が強く、ちょっとした環境や状況の変化も察知する能力がある。従って、工事でいつもと違う騒音がするのを警戒して、住んでいた場所を逃げ出したり、解体によって住処を奪われたりして民家に入ってくるとする考え方が有力である。

Q5 週に1度位の頻度で、天井裏でねずみ音がする。ねずみはいろいろな場所を移動しているのか。

A：移動すると云うよりも活動すると表現する方が適切であろう。ねずみは活動しながらさまざまな場所に侵入し、そこに餌や巣の材料になるものがあり、外敵などから守られた安全な場所であれば定着し繁殖場とする。週に1回程度ということであれば、その場所も活動範囲の一部と思われる。

Q6 夜中に壁の中で音がするが、ねずみは壁の中にも入るのか。

A：入る。特に床下や天井、戸袋から侵入しやすい。場合によっては壁の割れ目からも侵入する。内壁と外壁の間には断熱材などが入れられており、さらに雨風や外敵からも守られているので暖かく、ねずみにとって絶好の営巣場所である。

Q7 ねずみはどんな所にどんな巣を作るのか。

A：ねずみは、人の目に付きにくく、暖かい場所に、布切れや紙くずなどを集めて巣を作る。クマネズミの場合、具体的には、天井裏、押入(あまり使用しない)、壁の中、冷蔵庫やテレビなどの家電製品の後ろ(放熱板があり暖かい)など、さまざまな場所に作る。このため、家電製品の電気コードをねずみが齧ってショートさせたときに巣に引火し、火災を引き起こすことがある。

ドブネズミは地中に穴を掘って巣を作る傾向があり、公園やビルの緑地、歩道脇の植え込みなどが格好の営巣場所となっている。屋内では、建物や部屋の比較的低い場所で活動するため、調理場の床や下水溝を歩き回り、調理台やカウンターの内部や、植木鉢の内部など、人目に触れにくい場所に営巣する。巣は鳥のように形の整った巣を作るのではなく、どちらかと言えば、巣材を一個所に集めてその上で繁殖を行うといった程度の巣が多い。

Q8 空き家にしているとねずみに入られやすいというのは本当か。

A：ねずみは外敵から守られ、巣材が手に入りやすい環境を好むため、人がいなくて静かで、かつ巣材になる衣類や紙などが残っている空き家は絶好の繁殖場所になる。この場合、餌がなくても他の家の台所やペットの餌場など、行きつけの餌場に出入りして採餌することもできる。従って、空き家になる場合は、事前に侵入防止対策をとることが大事である。

Q9 我が家では食べ物をしまっているのにねずみに入られる。どうしてか。

A：Q8のAで説明したように、ねずみは営巣場所と採餌場所を分けて生活することができる。問い合わせのお宅は、専ら営巣場所として利用されていると考えられる。

Q10 どのくらい硬いものだとかじられないか。

A：ほとんどの建材はかじられる。金属でも、アルミニウム程度だとかじられる。それ以上の硬いものや、歯がかりのない平滑な材質のものは難しいが、鉛が齧られた例もある。

Q11 ねずみは1年にどのくらい増えるか。

A：一般にねずみの繁殖力は強く、生後3か月から出産し、条件が良ければ年に6~7回分娩し、1回に6~10匹程度の仔を生む。算術的には一つがいが1年で9434匹に増加するという計算があるが、実際には餌の量、巣の場所、仲間同士の争いなど、環境やねずみ集団内部の様々な制限要因があるので、そこまで増えることはない。

Q12 猫がねずみを捕ってきたが、猫やその飼い主が病気にならないか。

A：猫の場合は、原虫のトキソプラズマや猫条虫などに感染したネズミを食べれば感染する。人の場合には、病原体を保有したねずみに直接触れれば感染する恐れはある。また、猫が捕まえたねずみを引きずり回したりする過程で、食品などに触れ、そこで汚染した食品を口にして感染が起きるといった可能性も考えられる。

Q13 ねずみ駆除をしたら、イエダニに刺されるようになった。イエダニの対策はどうしたらいいか。

A：ねずみ駆除を行うとイエダニに刺されるのは、死んだねずみやその巣からイエダニが離れて、人を襲って吸血するからである。駆除を行ったら、ねずみの死がいや巣は、できるだけ探し出して速やかに撤去し、それらがあつた場所の周辺に殺虫剤を散布する。

Q14 ねずみは何日くらいで餓死するのか。

A：温度によって異なるが、寒いと1日以内、暖かいと4~5日で餓死する。

Q15 ねずみの行動範囲はどのくらいか。

A：クマネズミの場合は半径約30mくらい、ドブネズミの場合にはもっと広いと言われている。

Q16 東京ではねずみの個体数は増えているのか。

A：そのような調査はないので実態は明らかではないが、相談件数と個体数はある程度比例すると考えられるので、相談件数から類推すると、少なくとも住宅地におけるねずみの個体数は増加していると考えられる。

Q17 地下鉄を歩いてねずみが都心から住宅地に来ると聞いたが本当か。

A：ドブネズミは地上周辺で活動しており、下水管や排水溝などを通路として移動する。従ってドブネズミが地下鉄線路や構内を移動する可能性はあると思われる。クマネズミはビルの比較的上層部での活動が多いので、地下鉄構内を移動に使用する可能性はドブネズミより低いと思われるが、実態はまだよくわからない。

2 ねずみの被害に関する質問

Q1 ねずみの小便の臭気を除去する方法は？

A1：水で洗い流すだけでも十分である。トイレの洗浄剤を使用しても良い。どうしても臭いが気になるなら、消臭剤等、他の匂いでマスキング、吸着させる方法がある。ただし、臭いの付着している場所を的確に把握すること、また、使いすぎに注意することが必要である。

Q2 ねずみに食べ物を齧られないしまい方はあるか。

A：室温で保存するものは、缶やプラスチックなどのふたつきの容器に入れるか、ねずみの侵入口がなくしっかりと閉まる戸棚に入れる。ダンボールの箱は容易に齧られるので不可。

Q3 ネズミ捕りを使った場合、捕らえた後のねずみをどう処理すればいいか。

A：庭がある家であれば、地面に穴を掘って埋める方法もある。この場合、穴はやや深めに掘ること。また、他人の敷地や公共の場所に無断で行うのは不可。死んだねずみを可燃物として出せる自治体が多いので、管轄する清掃事務所等に確認するとよい。

Q4 ねずみが来るので、庭で家庭菜園や柿を植えたりするのはやめた方がいいのか。

A：やめるかやめないかはあくまでも本人が決めることであるが、自宅のみならず近隣への影響も考えなければならない。基本的には侵入防止対策や防除を行うのがよいが、栽培を継続する場合は、放置するとねずみの餌となるので、収穫を速やかに行い、収穫残渣物は放置しないなど、ねずみの餌場とならないための工夫が必要である。もし、ねずみが柿など実のなる木に登って実がとられる場合は、幹にブリキなどで帽子のつばのような輪をつけると良い（ねずみ返しの原理）。

Q5 ねずみの糞が落ちていた場所や、ねずみが歩いた場所は、消毒した方がいいか。また、方法は？

A：あまり神経質になる必要はない。もし消毒するなら消毒用アルコールでの清拭程度でよい。ただし、調理台や食器、調理器具など、間接的に食品が汚染される危険性の

ある場所や器具については、よく洗浄、消毒すること。

Q6 家や倉庫の周りをうろつくねずみを来なくするにはどうしたらいいか。

A：壁伝いに物は置かない。この場合、家や倉庫そのものか、または周囲に餌となるものがあり、ねずみをひきつけている可能性もある。周囲に餌がある場合は除去することと、建物への侵入を防止するため侵入口を塞ぐなどの対策を講じる。

Q7 ねずみに齧られると病気になると聞いたが、どんな病気か。

A：鼠咬症（そこうしょう）という病気があるが、齧られたから必ず発症するというわけではなく、むしろ発症はまれである。本症はねずみの口腔内の細菌により引き起こされ、かなりのネズミが病原菌を保有している。感染すると、咬傷部がはれ、発熱、発疹などの症状を伴う。

Q8 集合住宅に住んでいるが、自分の家では駆除しても、また他から来てしまう可能性はあるか。

A：その可能性はある。近隣が一斉に駆除を行ったり、ねずみがない時に防そ工事を施したりするなどの対策が重要である。

3 ねずみの防除に関する質問

Q1 ねずみが部屋に出て困っている。どうしたらいいか。

A：指針第三部 - 4 , 5 参照。部屋に侵入したねずみは、そこが営巣するのに適した環境であれば、居続けて繁殖する。また、食べ物が得られやすいことがわかると餌場に利用する。従って、ねずみに入られやすい部屋は、まず侵入口を調べてそれを塞ぐとともに、巣材になるものや食べ物をねずみに持ち去られないような方法で収納し、ねずみに住みつかれないための環境整備を行うことが大事である。

Q2 ねずみが台所に出没している。どうしたらいいか。

A：同じく指針第三部 - 4 , 5 参照。台所に出没するということは、ねずみの餌場となっている可能性がある。そのため、食品は蓋つきの容器や冷蔵庫、戸棚（ねずみの侵入口がないことを確認する。）などにしっかりしまい、また、生ごみも放置しないで蓋つきのごみバケツなどに入れ、ねずみに持ち去られないようにする。また、ゴキブリもねずみの餌となるので、ねずみ防除だけでなくゴキブリの防除もあわせて行う。

Q3 ねずみがどこから入ってくるのか判らない。どうしたらいいか。

A：これも指針第三部 - 4 , 5 参照。木造住宅では、ねずみはエアコンのダクトや電

線を通すために外壁に開けた貫通部分の隙間、屋根と壁の間の隙間、外壁にできた割れ目や穴、家の基礎の通気口などがねずみの侵入口となっている場合が多い。クマネズミの場合、1.25cmの隙間があれば通り抜けることができる。また、歯がかりがあれば齧って通路にしてしまう。ねずみの侵入口には、体の汚れがついて黒く汚れていたり、足跡、齧り跡などのいわゆるラットサインがあったりするので、これらを目安に侵入口を見つけて塞ぐことが大事である。

Q4 天井でねずみの音がする。どうしたらいいか。

A：外から天井に至る間に侵入口があると思われる（壁と屋根の隙間、電線の貫通部分の隙間、壁の破損による開口部など）。侵入口を塞ぐとともに、Q1のAに示すようなねずみに居座られないための対策も行う必要がある。ねずみが出て行かない場合は、指針第三部5を参考に、駆除を行うこと。

Q5 庭にねずみが来る。ベランダの鉢植えを食べてしまう。どうしたらいいか。

A：ねずみが好む鉢植えは、食べられない場所に移動し、ねずみを寄せ付けないようにする。また、庭とベランダの位置関係がよく分からないが、ベランダへの侵入防止対策も必要である。ねずみが植え込みに出没する場合は、ドブネズミである可能性が高いので、殺そ剤を使用した駆除や、忌避剤の使用が可能。

Q6 ビルのテナントだが、店にねずみが出ている。商品(食品)を齧られる。駆除方法は？

A：テナントが個々に駆除を行っても、十分な効果は上がらないので、ビル全体での防除が必要であろう。そのため、ビルにおいて効果的なねずみ防除を行うためには、所有者とテナントの間で役割分担を決め、それが円滑に遂行されているかを確認することが必要である。具体的には、ビル本体の防そ工事を所有者が行い、テナントはごみや食品等の取扱い、清掃方法等について決められたルールを守ってねずみの発生防止に努めることである。この場合、防除業者に、定期的に効果判定を実施してもらい、専門家の観点から環境対策についてのアドバイスを受け、被害発生防止のための監視の役割を担ってもらうことが必要である。

Q7 マンションでねずみ被害が発生した場合、どうすればいいか。

A：マンションの場合は管理組合が主体となって対策をとることが肝要である。ねずみの被害が発生した場合は、まず被害発生の周知と、アンケート等でマンション全体の被害状況を調べ、侵入経路、拡散状況等を把握する。同時に、ねずみの温床となっている可能性のあるごみ置き場などを調査し、それぞれの結果に基づいて対応策を講じる。対応策としては、防そ工事を管理組合と業者とが協議して実施するとともに（工事費用を修繕積立金等から出すか、臨時に徴収するか等の決定が必要）、ごみの出し方や施設の使用方法についてルールを定め、住民全員に守ってもらうことが重要であ

る。

Q8 近くで解体工事がある。ねずみが来ないようにするためにはどうしたらいいか。

A：設問のような現象が解体時に発生することについては、具体的に立証された例はない。しかし、多くの住民や防除業者などからこの現象にかかわる目撃例、体験例が寄せられており、考慮すべき事態と考えられる。従って、事業者は、建物の解体前にねずみの生息調査を行い、生息が認められた場合は駆除を行い、効果判定することが望まれる。また、解体工事を行う建物の近隣の住宅は、自己防衛の意味でねずみ侵入防止のための対策をとることが望ましい。建物の解体に際しねずみ駆除の指導を行っている自治体もある（港区「港区における建築物の解体工事に関する指針」第2部 - 3(3)参照）。

Q9 壁の中で巣を作っているねずみは、どうやって駆除すればいいか。

A：まず、壁の一部を取り外したり、切って穴を開け、巣を取り除くことが基本である。このような措置ができない場合は殺そ剤を使用する。殺そ剤の粉剤をねずみの通路、営巣場所に散布する。粉剤はねずみの体に付着し、それをねずみがなめることにより死亡するものである。壁への侵入口が分かればその周辺に毒餌を仕掛け、駆除された後、穴を塞いでおく。実際にはかなり難しい対策になるので、専門業者に依頼する方がよい。

Q10 毒餌は そのまま 食品にまぜて 砕いて食品に混ぜて団子にする、のどの方法がいいのか。

A：薬の種類や剤型、またねずみの種類や発生状況によって異なるので、その薬の使用説明書に従うのが良い。また、そのままでは喫食状況が良くない場合は、生餌に混ぜるなどの工夫も有効である。（指針第3部 - 5(3)参照）

Q11 おとり餌には何がいいのか。

A：籠などの餌は魚肉ソーセージや油揚げなど、安価で取りつけやすいものがよい。食べない場合はチーズや上等なソーセージ等を使うとうまくいく場合がある。しかし、クマネズミは籠にはきわめて掛かりにくい。

Q12 殺そ剤を使用した場合、ねずみはどこで死ぬのか。

A：殺そ剤によっては明るい所に出て死ぬと言われているものもあると聞くが、根拠はなく、死ぬ場所は限定されない。殺そ剤が効果があれば、中毒により警戒心がなくなり、行動パターンが変わるので、場所の明暗にかかわらず死ぬ。

Q13 クマネズミは、殺そ剤を食べないのか、食べても効かないのか。

A：クマネズミは警戒心が強いのと、食性がドブネズミに比べ偏っているため、毒餌を食べにくく、殺そ剤に対する感受性ももともとドブネズミより低いと、殺そ剤にも強い。また、クマリン系殺そ剤を多用している特定の場所では、強い抵抗性を獲得している集団が見られるが、それも都内の繁華街の一部で見られる程度なので、一般家屋ではあまり心配する必要はない。

3 ねずみ防除の技術的質問

Q1 粘着シートや捕獲器具を使っているが、ねずみがわなにかからない。どうしたらいいか。

A：ねずみがわなにかからない理由としては、トラップの配置数と、配置方法に問題があると思われる。指針第3部 -5(2)を参考に、工夫してみるとよい。

Q2 ねずみが毒餌を食べない。食べても効果がない。どうしたらいいか。

A：これも指針第3部 -5(3)参照。ねずみは残飯や食材などがあれば毒餌は喰わないので、毒餌以外に喰うものがないようにすることが肝要。喫食しても効果がない場合は、喫食量が少ないか喫食日数が足りない(クマリンの場合)あるいは、殺そ剤感受性が低下しているなどのケースが考えられる。その場合には他の方法によって防除を試みる必要がある。

Q3 家屋の隙間をふさいだら、逃げ場を失ったねずみはどうなるのか。

A：屋内での餌の保管方法が完全なら、ねずみは餓死する。しかし、隙間は逃げるだけでなく、侵入にも使用されているので、家屋内の状況がそのままなら、従来どおり生息し続ける。

Q4 家の隙間が多すぎてふさがきれない。何かよい方法はないか。

A：侵入のポイントとなる外部とつながった隙間は、通常はそれほど多くはない。たくさんある場合、一挙にすべての侵入場所を塞ぐのは難しい。目に付く隙間から塞いでいけば、次第に侵入ポイントが絞られてくる。穴のふさがり方は、指針第3部 -5(1)にも示すとおり、金属タワシや亀甲金網などの扱いやすかつねずみの嫌う材料を使用すればよい。高所のため危険であったり、広範囲にわたって塞ぐ必要があるなどの場合は、専門の業者に頼む手もある。

Q5 ねずみの嗅覚忌避剤は効くのか。

A：効果を過信しない方がよいが、効く場合もある。ただし、長期間使用していると「慣

れ」が生じることもある。

Q6 超音波捕そ器は、効くのか。

A：実験的には音圧が130デシベル以上あると、ある程度忌避する行動が見られるという結果が得られているが、実用的には評価はまちまちであり、また仮に効果がある場合でも絶対ではない。総合的に見ると実用効果については否定的な意見のほうが多いように思われる。

Q7 ねずみを追い詰めてしまったときは、どうやって捕らえたらいいか。

A：専門家が行う方法は、撲殺（素手ではなく道具を使うか、新聞等をかぶせて叩く）である。一般の人が行う場合も基本的には同じような方法をとるしかないが、素手で行うことだけは避けなければならない。もしあらかじめ使用するために購入した粘着シートがあるなら、それを近づけて貼りつける方法が適当と思われる。叩く場合は新聞紙の代わりにぼろ布でもよいが、追い詰められると飛び上がることもあるので十分注意すること。

Q8 毒餌を使って、家の中で死なれないようにするには、どうしたらいいか。

A：毒餌による死に場所は限定できないので、家の中で死なれたくない場合は、トラップによる捕獲など殺そ剤以外の方法をとる方がよい。

Q9 粘着シートには、餌をおいた方が良くないのか。

A：置かない方がよい。理由は、餌が劣化すると忌避されることがあるからである。また、粘着シートは走っているねずみが足をとられてもがき、それにより体全体がシートに付着して捕捉されるものである。餌が粘着シートの上にあると、その周辺は粘着されず、粘着面が少なくなって逃げる場合が多くなる。

Q10 屋外のねずみの駆除方法について教えてほしい。

A：まず調査を行い、巣穴の有無や餌になるものが何かなどを確認する。巣穴があれば毒餌をその周辺や内部に投与する。餌になるものが置かれているようなら、それらを除去する。また、周辺が雑然としているとねずみの隠れ場所にもなるので、整理整頓に心がける。殺そ剤を投与する場合、ばらまくとイヌ、ネコが喰うおそれがあるので、できるだけ毒餌箱を用いてほかの動物が摂取できないようにする。

Q11 シャッター巻取り部からの侵入を防ぐ良い方法はあるか。

A：専門家用の器材だが、シャッター用の防そ工事材料がある。工事には専門的な知識が必要なので、できれば防除業者に依頼する。

Q12 ドブネズミの巣穴に対する処理方法はあるか。

A：巣穴に殺そ剤の粉剤を投入する。投入した穴を簡単に土などを埋めて塞いでおくと、その後の状況が観察できることがある。再度開けられるようなら、まだ生存している証拠になる。

4 業者の紹介に関する質問

Q1 専門家に駆除を頼みたいが、どこがいいか。

A：都では業者の団体である（社）東京都ペストコントロール協会(03-3254-0014)を紹介している。協会は地元の業者、相談できる業者、被害の程度や状況、金額等に応じた業者の紹介が可能である。

一般的に信頼できる業者の基本になるのは、専門的知識に基づいた防除がなされ、かつ会計が明瞭なところを選ぶことである。一般家屋の場合、費用は100万円以上の単位はありえないし、依頼したネズミだけではなく、シロアリなどへ話を進めようとする業者は注意した方がよい。

Q2 社団法人東京都ペストコントロール協会とは、どういう団体か。

A：同協会は、東京都が認可した公益法人で、ねずみや害虫を防除する専門業者が加入しており、独自の資格制度を持ち、会員への情報提供、社員研修、都民からの害虫相談、感染症患者宅の消毒などを行っている。

害虫相談の加盟業者には、毎年、講習会の受講を義務付けるとともに、適切な相談ができるよう指導している。

Q3 駆除を依頼した場合、費用はどのくらいが相場か。

A：ねずみの駆除には複数回の作業が必要である。（社）日本ペストコントロール協会の調査では、3回が18%、2回と4回が14%、6回以上が13%、5回が7%、1回が2%であった。調査によって大まかな概算は見積もりすることができる。周囲の環境、住宅構造、環境状態によって異なるので一概には言えないが、初回作業で3万～6万、2回目以降は1回あたり1万5千から3万、状況によっては駆除後毎月点検を行う年間契約が必要な場合もある。家屋内外のすき間を封鎖する防そ工事は構造によって異なるが、5万～10万は考えた方がよい。いずれにしても、調査をしてもらい見積書をもって十分説明を聞くことが必要である。床下換気扇や調湿剤を勧めて100万円以上も請求されるといった苦情が消費者センターに持ち込まれるが、ねずみ駆除ではこのような作業は必要ない。

Q4 「より良い業者を選ぶには？」という問い合わせに対する的確な説明方法は？

A：良い業者を選ぶめやすは、良い病院を選ぶのと同じである。

すなわち；

(1) 専門知識に基づいた防除がなされていること。

(2) 説明責任を果たしていること。

の2つが挙げられる。具体的には

生息調査と防除後の効果判定を適切に実施していること。

殺そ剤や粘着トラップを使用した、物理的、化学的防除以外に、環境的防除の側面からも対策を講じたり指導を行ったりすること。

防そ工事の内容、施工方法等について顧客にきちんと説明し、理解を得ていること。

などが挙げられる。

また、点検商法、飛び込み営業、脅かし営業等により、不必要に顧客の危機感をあおる営業形態も不適切と言わざるを得ない。

なお、(社)日本ペストコントロール協会では優良事業所や1～3級技術者を認証しているので、これらも選択の一つの目安になる。

Q5 業者に依頼した場合、どの程度の効果が期待できるか。

A：一回で発生が収まる時もあるが、複数回の処置が必要なこともあり、期間も短期間で済むものから、2ヶ月程度かかるものもあり、状況によりさまざまである。きちんとした契約が行われれば必ず効果が期待できる。このためには、顧客と業者による事前の話し合いが十分に行われることが必要である。